

(別添4)

【地方公共団体の名称】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

大和高田市の子どもたちが、元気いっぱい自分の未来を切り拓く力を身に付けることが求められる。大和高田市ではめざす子ども像を「豊かな感性をもち、自ら学ぼうとする子」「多様性を認め合い、学び合い、共に生きる子」「探求心をもって、ねばり強くやりとげる子」と設定し学校教育に取り組んでいる。

そのために、学校教育及び家庭教育の場面で1人1台端末を有効に活用することで、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現させていく。非接触が前提のコロナ禍で端末が導入され、第1期ではリモート機能として活用してきたが、感染症対策が一定終息してからは、子ども同士、子どもと教員、教員同士、学校と家庭、それぞれをつなぐツールとしての役割を担ってきた。

様々な場面で端末を活用する機会が増え、身近な「文房具」として学びを支える存在となっている。これからの変化の激しい社会において、教員の教育的知見とICTの力を最適に組み合わせることで、学び方や授業の改善を進め、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現をめざす。

2. GIGA第1期の総括

①端末と通信ネットワークの整備について

○令和2年度より当市においても、GIGAスクール構想の実現に向けて端末やその保管庫、通信ネットワークの整備を行ってきたが、通信ネットワークについてはトラブルも発生することがあった。発生時には順次対応を重ねてきたが、学校現場からの不安が100%は払拭されておらず、一部学校現場では使用時に配慮させていることがあった。令和7年度にGIGAスクール端末の更新及び校務系と学習系のネットワーク統合を行うため、その設定変更の経過を見つつ、令和8年度にネットワーク機器の機器性能向上、通信帯域の向上等を行い、解決を図る。

②端末と通信ネットワークを活用した学びの実践について

○当市では、1人1台端末を令和2年度に導入して以降、ICT環境整備を急ピッチで進めてきた。端末導入だけでなく、通信環境や教員の校務支援システム、学習支援アプリ等、端末を活用するための様々な環境が整うにつれ、児童・生徒が端末を活用する姿も増えた。

○研修を重ねることで、教職員が端末を効果的に活用するスキルが、全体的に確実にアップしてきている。一方、学校によって、学年によって、教員によって端末の活用率に差があるのも事実である。

○情報科学技術が急速に発達していく中、児童・生徒をとりまく環境の中でもICTは身近な生活の一部として入り込んでいる。しかし、使い方によっては、他者を傷つけたり、友だちとトラブルを起こしたり、大切な情報を漏えいさせたり、他者の著作権を侵害し

たり、危険な情報にアクセスすることで自分の身を危険にさらしたりと、ICT活用の拡大にともなう懸念すべき課題も多くある。児童・生徒には、情報モラルや適切に使用するルール等の知識・技能を育成する必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

方針1 ICTを活用した児童・生徒の「学び改革」

- ・主体的・自律的にICTを活用しようとする「学びに向かう力」を育成する。
- ・児童・生徒が学びのツールとして、学習ソフトを活用し、一人ひとりの目標に向かって自分のペースで学習することを、学校での学習や家庭学習において推進する。
- ・児童・生徒が興味を持った内容について、一人一台端末を活用してその内容を探求していく機会や探求した内容を自分自身でまとめる機会を提供することを推進する。
- ・児童・生徒が授業を通じて学んだ内容について、教員や他の児童・生徒と考えを共有する機会や自分自身の考えを発表・表現する機会を提供することを推進する。

方針2 ICTの特性を生かして、誰一人取り残されない多様な学びを実現する

- ・ICTの特性を活用し、不登校や療養等により学校への登校が困難な児童・生徒などに対して、学習機会の確保及び教育相談の充実に向けた取組を推進する。
- ・様々な学習場面において、特別な支援が必要な児童・生徒の困難さを軽減するとともに、それぞれが持っている能力を最大限引き出せるようなICT活用の推進を図る。

方針3 教職員にむけた研修を充実させる

- ・情報活用能力を体系的に育成するために、情報化推進に向けたリーダー・サブリーダーの育成や児童・生徒の探求的な学びを実現できる教員の育成に関する研修を実施し、教職員の指導力・活用力の向上を図る。